



2-7 LAC 特別講座 A Singable Translation Workshop

～ブロードウェイミュージカルの曲を訳そう♪～

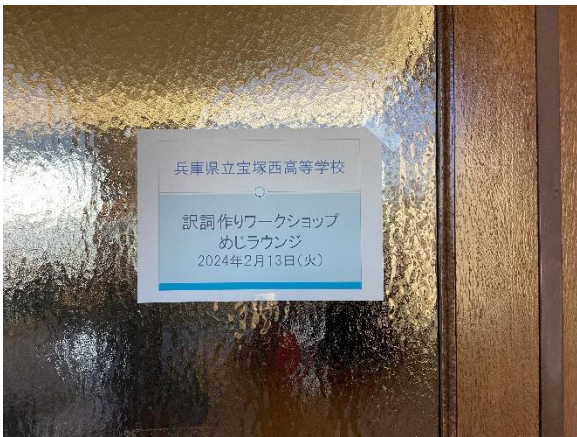
2月9日(金)3,4時間日本校にて、2月13日(火)午後は神戸女学院にて、文学部英文学科准教授の中村昌弘先生による特別講座を受けました。

先生によると、「歌を実際に翻訳するときは、話のストーリーや時代背景、単語の表す意味を理解し、ふさわしい日本語をさがし、音に当てはめていくという作業が必要になります。」とのことでした。グループごとにブロードウェイミュージカル *Wicked* から、*Defying Gravity* を訳してみることに。さあ、どうなるでしょうか？



先生からミュージカルのあらすじを教えてください、グループごとに音に日本語をあてはめて訳を作っているところです。早いグループは9枚あるスライドのほぼすべてをなんとなくうめられていました！13日には神戸女学院にて仕上げ発表し、劇団四季の訳と比べるとのことなので、各グループ、どんな訳になるのか楽しみにしています！

2月13日（火）、神戸女学院めじらウンジにてワークショップ2回目を実施。



中村先生から3つの Discussion Question
が出され、それを各グループごとに協議
して、全体でシェアしました。

自分たちの作った歌詞を劇団四季の歌詞、中村先生の歌詞と比べて、どうでしたか。
多くのグループがとてもいい気づきをしていたと、先生からほめてもらいましたね！

大切なのは、ただ、「単語を訳す」のではなく、「ストーリーを考えて聞いている（この場合は）人に伝わりやすい言葉を使う」こと、そして、その言葉を「ナチュラルに表現する」こと。

思っていることが思っているように相手にも伝わっているかの保証はどこにもない。訳すときは相手に合わせた言葉を使うことが大事だと教えていただきました。